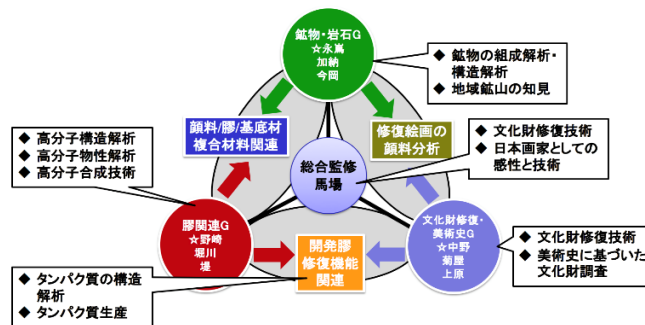
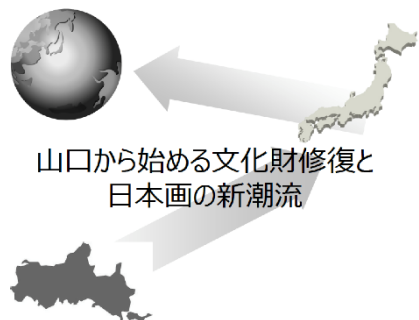


◎特色ある取り組み

本研究は、山口型とも呼べるような地域密着型文化財保存修復研究を目指すと共に、最終的には、文化財保存修復センターの設立と、センターにおける研究活動を目指すものである。

また、平成28年度から平成30年度において行われた「山口から始める文化財修復と日本画の新潮流」を引き継ぐ形で計画しており、文化財修復の温故知新として文化財保存修復の第一人者である馬場良治氏が開発した膠や山口県美祢市にある長登銅山のリサーチなど日本画では本来使用していた素材に回帰するような方法での、新たな保存修復技術の新潮流の可能性を探るものである。

学内においては古典技法に基づいた「日本画集中講義」を毎年行なっている。



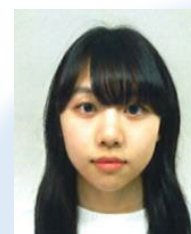
◎取材対応者(予定)



大学院創成科学研究科 (工学)
堤 宏守 教授



教育学研究科
中野良寿 教授



教育学部美術教室
2年 古合有香

◎日本画集中講義で宝草華文の模写を行なってみて、どんな感想を持ちましたか？

再現模写をやってみて、修復作業の難しさ、奥深さなどを学ぶことができました。若絵具を使った着色は、普通の絵の具と異なって色ムラができないように塗るのがとても難しかったです。色によって若絵具の粒子の大きさが違うため、塗り方も区別しなければなら

ないものがあることを初めて知りました。今回私たちが使わせて頂いた筆は細くて塗りやすいものでしたが、実際の修復に使われる筆はもっと太いのだと知り、修復の作業には高度な技術が必要なのだと身をもって感じました。

◎上記取り組みによる成果・評価など

本研究プロジェクトは、《素材研究部門》における顔料の原料となる鉱石・岩石などの入手に適した山口県地域の『地の利』と馬場良治氏、山口大学に所属している教員及びび学生（最終的には、地域住民）の『人の利』を連携することで行われているプロジェクトである。

従来の文化財修復技術や日本画の表現技法など、経験則が優先しており、どちらかと言うと、科学的なアプローチが行われていなかった本分野において、理学、工学、そして美術関連（文化財修復や美術史）等の専門の異なるメンバーが、それぞれの専門分野を活かしながら、個々の得意とする分野の知識や能力を駆使して、この分野の課題や未解明の部分に取り組むと共に、さらにお互いが連携した研究テーマを設定し、これに対して取り組んでいることが評価されている。

◎参考URL

- ◆山口学研究センター
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yamaguchigaku.html>
- ◆馬場良治氏講演会「文化財修復技術の現状と課題」を開催
http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yamaguchigaku/latest_news/_6488.html
- ◆日本画家 馬場良治氏による講演会「文化財修復技術の現状と課題」を開催
http://www.yamaguchi-u.ac.jp/topics/2017/_6629.html